

## ネギ栽培におけるオオムギ間作による土着天敵を利用したネギアザミウマ密度低減効果

### 研究のねらい

ネギのネギアザミウマは夏期に発生が多く、食害による品質低下や生育不良を引き起こす重要害虫です。現在は薬剤を散布し防除していますが、薬剤散布は労力の負担が大きく、また薬剤感受性の低下により薬剤が効かなくなることも懸念されます。そこで、夏期のネギ栽培ほ場で、畝間にオオムギを間作し、土着天敵を誘引することによるネギのネギアザミウマ密度低減効果について検討しました。

### 技術の特徴

#### 1 ネギアザミウマの密度低減効果

7月中旬頃から8月中旬頃にかけては、ネギアザミウマの土着天敵（カブリダニ類）が発生したため、ネギに寄生するネギアザミウマの頭数は無処理区と比較して半分～1/4程度まで減少しました（図1）。

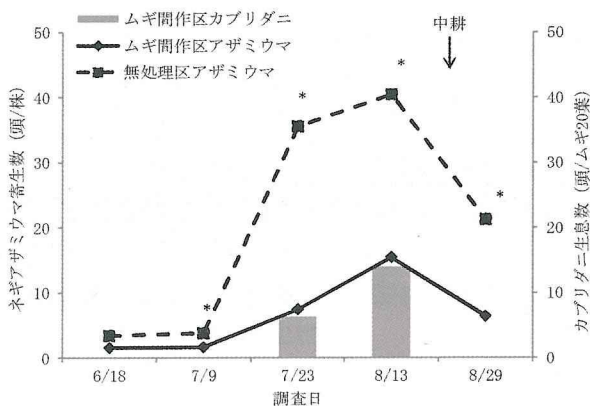


図1 平成26年浜川市圃場でのネギアザミウマ寄生数とオオムギにおけるカブリダニ数の推移

#### 2 オオムギに発生する土着天敵

オオムギには、クモ類、カブリダニ類（写真1）、ヒメハナカメムシ類などのネギアザミウマの天敵が発生しました。



写真1 カブリダニ類  
（キイカブリダニ）  
体長：0.4mm程度



写真2 オオムギ生育期  
平成26年7月23日  
浜川市圃場

#### 3 オオムギの管理

播種：オオムギを春まきする場合には、2ヶ月程度で枯死する百万石が適しています。播種量は1.5kg/10a程度で、5～6月にすじ播きします。

生育期（写真2）：ネギの病虫害防除は土着天敵に影響の少ない農薬を散布します。雑草対策は、除草剤を使用しますが、オオムギが繁茂するまでは適宜手取り除草を行います。なお、オオムギ生育期には、機械を使用した中耕等の作業はできません。

枯死：8月末までには枯らすには、6月中旬以前に播種する必要があります。ただし、気象条件等により枯死時期が遅れる場合があるので、その時はオオムギを刈ってから中耕等の作業をしてください。

### 今後の取り組み

関係機関と連携し、本技術が効果的に現地に導入できるように、生産者に向けて普及および推進をしていきたいと考えています。

（執筆者：吉澤 仁志）